

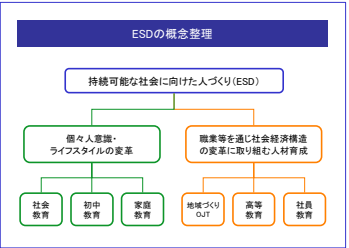
**ESD のEが意味すること**

2009年7月12日  
文責：中西紹一（立教大学ESD研究センター）

ESD (Education for Sustainable Development)  
概念の整理

ESDをより簡潔に表現するならば、それは「持続可能な社会に向けた人づくり」「持続可能な社会を創るための人づくり」

キーワードとしての  
**育成**



2007年6月17日公開セミナーにおける白石賢司氏(環境省環境教育推進室)報告「EUにおけるESD最新事情～EUにおけるUNDESD会議報告～」資料より

「人材を育成する」際に見られる  
2つの側面

① (狭義の) 教育

- 知識は脱文脈化できる、という主張から形成されている知識伝達の場。

② (広義の) 学習・学び

- 学習行為とは「共同体への参加」という実践の際に生じる一つの特徴。
- 学習は「状況に埋め込まれている」

参考) 正統的周辺参加 (Legitimate Peripheral Participation =LLP) の考え方

個々の学習者は、ひとまとまりの抽象的な知識の断片を獲得し、それを後に別の文脈に移して当てはめる、といったことはしない。むしろ、学習者は正統的周辺参加(LLP)という、ゆるやかな条件のもとで実際に仕事の過程に従事することによって業務を遂行する技能を獲得していくのである…つまり、学習はいわば参加という枠組みで生じる過程であり、個人の頭の中ではないのである。

状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加  
ジーン・レイブ/エティエンヌ・ウェンガー著

「状況に埋め込まれた学習」論は  
教育と学びを、独立の営みと捉えている

学習カリキュラム

- 学習者の視点から見た日常実践における学習の資源が置かれている場。
- 学習カリキュラムは、単独で考えられるものではなく、教え込み的 (didactic) なことばで操作されるものではない。

状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加  
ジーン・レイブ/エティエンヌ・ウェンガー著

ESDの「Education」を捉える際に  
何故「状況に埋め込まれた学習」の例を挙げたのか？

持続可能性 (Sustainability) には

**脱文脈化できる領域 (教育的)**  
**脱文脈化できない領域 (学習的)** の双方がある

双方の視点を踏まえた「対話」こそが  
持続可能な開発のための第一歩

脱文脈化できる／脱文脈化できない  
双方が混在した問題の例

例えば太陽光発電・・・

**脱文脈化できる**  
(「教育」的側面が強い)

再生可能性エネルギーこそが地球を救う。

**脱文脈化できない**  
(「学習」的側面が強い)

シリコンのリサイクルは？  
珪石の産出先は？  
...

あるべき未来へ向かう対話が必要

ステークホルダーとの「対話」が一層重要な要素となる  
ISO26000

CSR時代の  
エンゲージメント

ISO26000時代=S-R時代のエンゲージメント

株式会社損害保険ジャパン CSR・環境推進室長 関正雄氏  
提供資料より